

城東の莊に宴す（崔敏童）

一年始めて一年の春有り

百歳曾て百歳の人無し

能く花前に向つて幾回か酔わん

十千酒を沽うて貧を辞すること莫かれ

一年始有一年春 百歳曾無百歳人
能向花前幾回醉 十千沽酒莫辭貧

解説 長安城の東の郊外にあった別荘。この別荘は弟の崔惠童の別荘であった。ここで、宴を開き、その席上で作った詩。

語釈 ※城東莊||長安の東の郊外にあった池亭。

※百歳||人の寿命の上限をいう。※花前||花の前。

※十千||一万錢。錢。※沽酒||酒を買うこと。※貧||貧しい。

通釈 一年たてば、必ずその年の始めの春がやってくる。人の寿命は百歳というが、百歳生きるものは一人もいない。花に向かつて、何度酔うことができるだろうか今やその機会だ。錢を惜しまず美酒を買って、快く飲もう。金がないなどと言いつけるものではない。